

この効果が著しい。この場合、活性剤の親水性が大きいものの方が蛍光強度低下の程度が著しい。しかし、界面活性剤を滴下湿潤した場合はほとんど変化を認めなかった。

これ等の結果から非イオン界面活性剤の蛍光低下をもたらす理由として、蛍光染料と非イオン界面活性剤との相互作用による発蛍光物質の減少は考えにくく、共存染液からの染着量が減少するためと推定された。

B-31 蛍光増白染料と界面活性剤との相互作用 (第1報)

茨城大教育 ○斎藤由紀子
お茶大家政 矢部 章彦

1. アニオン界面活性剤は、蛍光増白染料の染浴に併用すると、染布の蛍光強度が未併用の場合より増加し、非イオン界面活性剤の場合には逆に低下する現象が起こる。そこで、本研究は、蛍光増白染料による木綿布に対する非イオン界面活性剤の作用の詳細を明らかにすることを目的とした。

2. 試料はトリアジニルスチルベン系直接染料型蛍光増白染料2種を使用し、種々の濃度で、アニオン(Na-ABS)および非イオン活性剤(ポリオキシエチレンノニルフェノールエーテル型)との共存浴から綿布を染色し、蛍光増白効果をしらべた。また、標準状態で染色した蛍光染布に界面活性剤水溶液を滴下湿潤した場合の蛍光強度の変化もしらべた。

3. ポリオキシエチレンノニルフェノールエーテル型非イオン界面活性剤は染浴に併用すると、染布の蛍光強度は、未併用の場合より低下し、活性剤濃度が高いほど